

群 教 七	G05 - 07
	平15.214集

# 創造的な想像力を伸ばす 造形遊びの指導の工夫

— 場所の特徴をもとにした発想や表し方について  
交流する活動を取り入れて —

特別研修員 野村 厚子 (館林市立第九小学校)

## I 主題設定の理由

一般的に児童は、材料などを使って表す造形活動に関心をもち、次のような変化が見られるようになる。例えば、何かものを見た時にすぐ反応していた児童が、徐々に自分の考えを練りあげてから反応するようになる。また、周りの友達を気にせずに自分の思いを表現していた児童が、徐々に周りの表現を参考にしたり取り入れたりして自分の思いの表現を深く追究するようになる。生活の中では、グループで交流する活動を楽しむようになる。このように材料などを使って表す造形活動において、友達とかかわり合いながら、自分とは違った発想や表し方を知ったり、自分の思いを友達に伝えたりすることの意義は大きいと考える。

図画工作科においては、友達と交流しながらつくる楽しさを味わえる造形活動を考えた場合、「造形遊び」が当てはまると考えた。「造形遊び」は、小学校学習指導要領の内容A表現で示す「材料などをもとにした造形活動」のことである。特に、中学年では、場所の特徴から造形活動を思いついたり、みんなで発想したりして、新たなことを試みるなどの「造形遊び」が指導の要点としてあげられている。これまでの図画工作科における表現「造形遊び」の学習を振り返ってみると、一人で発想し創造していく活動に重点が置かれていて、互いの発想や表し方、その意図を伝え合い、交流し合うことで、自分らしいよりよいものをつくりだそうと思いをめぐらす創造的な想像力を伸ばす活動は少なかった。そこで、交流する活動を通して、児童は、いろいろな発想や表し方を知り、参考にしたり、取り入れたりすることができるだろうと考えた。そればかりか、自分らしいよりよいものをつくりだそうと思いをめぐらすことも可能となるであろうと考えた。また、児童は、自分の思いをふくらませ、造形活動の体験を深めることで、望ましい人間関係を形成できるだろうと考えた。

本学級(3年生)の児童の多くは、図画工作科の授業が好きである。しかし、絵を描いたりものをつくったりする授業のほとんどが教室内であるため、時には、自然の中、校庭、屋上、公園、川原などの場所でも授業をやってみたいと願っている。また、ほとんどの児童が、自然の中にある、木切れや石などを見ておもしろいと思っているのに、その思いが広がらず、造形活動への意欲が高まらない。はじめは、意欲的に活動していても、思いが深まらずに途中で造形活動が停滞してしまうという児童の姿が見られる。造形活動の体験では、ものを組み合わせたり、材料を切つてつないだ経験はあるものの、どんな材料や道具を使い、何をつくったのか、答えられない児童が多く、必ずしも児童がつくりたいものをつくってきたのではないことがうかがえる。鑑賞では、交流する活動を行い、友達の作品のよさ、工夫、努力していることなどにふれているが、それを生かして表現につなげるまでにいたっていない。これらのことをふまえ、場所の特徴をもとにした発想や表し方を交流する活動を取り入れて、よりよいものをつくりだそうと思いをめぐらし、自分らしい表現へとつなげていく創造的な想像力を伸ばしたいと考えた。

そこで、「造形遊び」において、場所の特徴をもとにした発想や表し方について交流する活

動を取り入れることで、児童の創造的な想像力を伸ばすことができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

造形遊びにおいて、場所の特徴をもとにした発想や表し方について交流する活動を取り入れることで、児童の創造的な想像力を伸ばすことができることを、実践を通して明らかにする。

## III 研究の見通し

- 1 「発想する」過程で、場所の特徴から考えた発想や表し方について交流する活動を取り入れれば、児童は、自分の思いがふくらみ、意欲を高めながら自信をもって造形活動に取り組むことができるであろう。
- 2 「製作する」過程で、造形活動の途中に、場所の特徴を生かした発想や表し方について交流する活動を取り入れれば、児童は、自分らしいよりよいものをつくりだそうと思いをめぐらし、思いを再構築して次の造形活動につなげられ、創造的な想像力を伸ばすことができるであろう。

## IV 研究の内容と方法

### 1 研究の内容

#### (1) 「創造的な想像力を伸ばす」とは

創造的な想像力とは、よりよいものをつくりだそうと思いをめぐらし、自分らしい表現へとつなげていく力である。つまり、自分の思いを、形、色、材料などに託して具現化するために、よさや美しさなどを考え、表し方などを工夫していく力である。このような創造的な想像力には、創造性の素地となる見通しをもつことや、計画性などの構想する力も含まれる。その伸びた姿は、自らの思いをふくらませ、意欲を高め、自信をもって造形活動に取り組み、自分らしいよりよいものをつくりだそうと思いをめぐらし、思いを再構築して次の造形活動へとつながっていくのである。

#### ア 「発想する」過程では

児童は、題材と出会い、活動してみたい場所を探したり、場所の特徴をもとにして発想したりする。活動場所の特徴からどのようなものにしていくか、また必要な材料についても考えをめぐらすであろう。そこで、一人一人の発想を交流する活動から、いろいろな発想や友達のアイディアを知り、自らの思いをふくらませることで、意欲を高めながら自信をもって造形活動に取り組めるようにする。

#### イ 「製作する」過程では

造形活動の途中に交流の場を設けることで、児童は、自分と違った表し方を知り、参考にしたり取り入れたりするだろう。そこで、自分らしいよりよいものをつくりだそうとする思いをめぐらし、思いを再構築して次の造形活動につなげていき、創造的な想像力を伸ばせるようにする。

#### (2) 「場所の特徴をもとにした発想や表し方について交流する活動」とは

場所の特徴から、多様な発想や表し方について知り、次の造形活動につなげていくことである。そのために互いの活動場所からの発想や表し方、その意図を伝え合い、造形作品をつくり

ながら意見交換することである。

具体的には、次の2点を交流する活動としてとらえている。

ア 場所の特徴から考えた発想や表し方について交流する活動

場所の特徴から考えた発想がまとめられた後、交流する場を設定し、一人一人の発想について伝え合うことで、発想や表し方、活動場所などが似ていることに気づいたり、自分と違った考えを知ったりする活動である。

イ 造形活動の途中で場所の特徴を生かした発想や表し方について交流する活動

場所の特徴から考えた発想や表し方をもとに、一人一人が造形活動を行う。その途中で交流する場を設定し、お互いの表し方やその意図を伝え合ったり、ほかの場所での表し方を見て、いいところやもう少し工夫するとさらによくなるどころなどを意見交換し合ったりする活動である。

## 2 研究の方法

### (1) 授業実践計画

対 象	館林市立第九小学校 3年1組 31名	抽 出 児 童
題材名	「ここは、すてきランド」	A：作業への取りかかりは早く、活動への意欲がある。想像力を伸ばしたいので、グループの交流を通して、参考にしたいことを明確にし、自分の造形活動に結び付けられるようにしたい。
期 間	平成15年10月15日 ～10月29日 6時間	B：取組に時間がかかる児童であるが、発想や表し方を互いに紹介し合う中で、自分なりの感じ方や見方について自信をもたせ、進んで造形活動に取り組めるようにしたい。

### (2) 検証計画

見通し	検 証 の 観 点	検 証 方 法
1	「発想する」過程において、校庭の築山周辺の特徴から考えた場所、形、色、材料などを伝え合ったことは、自分と考えや活動場所が似ていたり、違っていたりする友達がいることを知り、自分の造形活動の発想や表し方に変更を加えたり、追加したりするなど、造形活動の意欲を高め、自信をもって造形活動に取り組むことができるようにするために有効であったか。	・ビデオ等による観察（活動の様子、つぶやき、表情、会話、感想） ・学習カード（全児童や特に抽出児の観察記録と学習カードをもとに分析する。）
2	「製作する」過程において、造形活動の途中で発表の場を設け、お互いの表し方やその意図を伝え合ったり、ほかの場所での表し方を見て、いいところやもう少し工夫するとさらによくなるどころなどを意見交換し合ったりしたことは、自分と違った表し方を知り、一人一人の思いを再構築し、表現につなげていくなど、創造的な想像力を伸ばすために有効であったか。	・ビデオ等による観察（活動の様子、つぶやき、表情、会話、感想） ・学習カード・評価カード（全児童や特に抽出児の観察記録と学習・評価カードをもとに分析する。） ・作品のできばえ

## V 研究の展開

研究の見通しに基づき、以下のように授業実践を行い、検証する。

### 1 題材名及び題材の内容

題材名	「ここは、すてきランド」
題材の内容	本題材は、造形遊びにおいて、校庭の築山周辺の特徴をもとにした発想や表し方について交流する活動を取り入れることで、よりよいものをつくりだそうと思いをめぐらし、自分らしい表現につなげることができ、児童の創造的な想像力を伸ばすことができると考える。

## 2 題材の目標及び評価規準

目標	校庭の築山周辺の特徴をもとにした発想や表し方について交流することで、自らつくりだす造形活動を楽しみながら、創造的な想像力を伸ばすことができる。	
評価規準	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
	造形への関心・意欲・態度	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所の特徴に気づき、話合いに自分なりにかかわろうとしている。</li> <li>材料や道具などを動かしたり、配置したりして楽しもうとする。</li> <li>自分の思いや工夫を発表し、友達のところや材料の生かし方などよさに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所の特徴から発想し、進んで自分の考えを伝え、楽しい造形活動しようとしている。</li> <li>体全体を動かして、材料や道具などを活用したり、配置したりして楽しもうとする。</li> <li>進んで友達や先生に相談したり、自分の思いや工夫を、進んで発表したりする。友達のところや材料の生かし方などよさに気づく。</li> </ul>
	発想や構想の能力	
<ul style="list-style-type: none"> <li>場所、材料、道具などから思いつき、やってみようとする。</li> <li>お互いの表し方やその意図を伝え合う活動を通して見直したりつくり直したり、思いついたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場所、材料、道具などを生かして、具体的につくりたいものをたくさん考える。</li> <li>お互いの表し方やその意図を伝え合う活動しながら新たなアイデアを思いつき、活発に活動を広げる。</li> </ul>	
創造的な技能		
<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具を試し、場所の特徴に合わせて形づくりをしたり新しい材料を加えたりして、自分なりにつくる。</li> <li>話し合う活動を通して想像力をふくらませ、自分なりにつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料や用具の有効な使い方を工夫し、場所の特徴に合わせて形づくりをしたり、新しい材料を加えたり、つくり直したりする。</li> <li>話し合う活動を通して想像力をふくらませ、さらに新しい材料を加えたり、試したりする。</li> </ul>	

## 3 指導と評価の計画（詳細は資料編参照）

——— の枠内は見通し □ は評価方法

過程	時間	ねらい ・主な学習活動	支援及び指導上の留意点	学習活動の具体的評価規準		
				関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能
		○活動場所について知り、どのような活動をするか考える	・場所の特徴（雰囲気、広がり、その場所にあるもの）をもとにした造形活動であることを話す。	○場所の特徴に気づき、話合いに自分なりにかかわろうとしている。	○場所、材料、道具などから思いつきやってみようことを考える。	
発想する	3	【見通し1】 ・発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の発想を学習カードをもとに発表し、自分の試行の方向性を確かめることができるようにする（発表の仕方は別の学習カードに示しておく）。</li> <li>発表者には、友達に相談したいことや友達からの質問や意見を聞くように助言する。</li> <li>発表会を終えて、付け加えたり参考にしたかったり、学んだところがあつた児童には、学習カードに赤ペンで記入したり、付せん紙をはったりするように指示する。また、作品を変えたい児童には、新しい学習カード（せいさく計画書）を渡して書き直しをしてよいことを伝える。</li> </ul>	<b>十分満足できる状況のキーワード</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>場所の特徴から発想</li> <li>進んで</li> </ul> <b>努力を要する児童への手だて</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>話合いに進んで参加できるように促し、友達の発想や表し方から参考になるものや自分と似ている発想や表し方をしようとする友達がいることを知らせ、意欲をもって次の活動に向かえるようにする。</li> </ul>	<b>十分満足できる状況のキーワード</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生かして</li> <li>具体的に</li> <li>たくさん</li> </ul> <b>努力を要する児童への手だて</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>つくりたい場所や材料コーナーへ行き実際に材料を手にとって重ねたり、道具を操作することでやりたいことがはっきりするようにする。</li> </ul>	
		・材料を集める（個人）	・材料コーナーを設置し、児童の多様な思いや試行に 대응することができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>話合いの様子</li> <li>学習カードへの記述</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話合いの様子</li> <li>学習カードへの記述</li> </ul>	
		○場所から思いついた造形活	・前時にまとめた築山周辺の特徴と児童の活動場所を示	○材料や道具などを動かしたり、配置		○材料や用具を試し場所の特徴に合わ

	動を展開し、自分の思いを	した地図を移動黒板に掲示し見えるようにしておく。	したりして楽しもうとする。	せて形づくりをしたり、新しい材料		
製作する	3	<p><b>【見通し 2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達の作品を見る。(互いのよさや美しさが感じられるように作品を置いたり材料を組み合わせさせた場所で、互いの表現のよさや美しさを味わう。)</li> <li>感じたことや思ったことを学習カードに書く。</li> <li>集話し合う。</li> <li>学習カードを交換し合う。(学習カードに書かれている感じたことや思ったことを読んで、その内容を整理し参考にできそうなものを選ぶ。)</li> <li>友達と情報交換しながらさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を設置する際には、児童の安全と場所にあるものの保全に十分配慮し、高いところにつけたり、杭を打つことが必要な時は指導者が一緒に活動するようにする。</li> <li>造形活動の途中で鑑賞し、途中経過を紹介したり、感想を述べ合う相互評価の場を設定する。</li> <li>自分が工夫したところや友達のよいところを学習カードに記録し話し合うことで、想像をふくらませ次の発想へ生かすことができるようにする。単なる感想だけでもよいがどこを見てそう思ったのか、根拠を明確にするように指示する。</li> <li>子供の活動を認めたり賞賛したりする言葉かけをする。</li> <li>発想や活動場所が似ている者同士のグループをつくり、まずグループ内で交流するように話すなど短時間で、できるだけ多くの友達と学習カードを交換し合えるように工夫する。</li> <li>発想が変わり、表現内容に変更があっても認めていくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや工夫を発表し、友達の場所や材料の生かし方などよさに気づく。</li> </ul> <p><b>十分満足できる状況のキーワード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで</li> <li>相談する</li> </ul> <p><b>努力を要する児童への手だて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品のよいところや、工夫している点を、教師の意図的な指名により発表してもらい、自信をもって作品が仕上げられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの表し方やその意図を伝え合う活動を通して見直したりつくり直したり、思いついたりする。</li> </ul> <p><b>十分満足できる状況のキーワード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たなアイデア</li> <li>活発に</li> </ul> <p><b>努力を要する児童への手だて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場所や材料を見直したり、材料コーナーに行ったりして発想が発展できるようにする。</li> <li>活動が思い通りに進まない児童には、材料の扱い方やしくみについて相談のり、アドバイスを。子供の思いに応じてやり直しを認めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合う活動を通して想像力をふくらませ、自分なりにつくる。</li> </ul> <p><b>十分満足できる状況のキーワード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい材料</li> <li>加えたり試したり</li> </ul> <p><b>努力を要する児童への手だて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発想や表し方の似ている児童の取組みを参考にさせたり、工夫するとよくなることを友達からアドバイスしてもらったりして造形活動できるようにする。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の活動について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて友達と協力して活動したり、活動場所を</li> </ul>			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの様子</li> <li>学習カードへの記述</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの様子</li> <li>評価カードへの記述</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形作品</li> <li>学習カードへの記述</li> </ul>	

## VI 研究の結果と考察

1 「発想する」過程において、校庭の築山周辺の特徴から考えた場所、形、色、材料などを伝え合ったことは、自分と考えや活動場所が似ていたり、違っていたりする友達がいることを知り自分の造形活動の発想や表し方に変更を加えたり、追加したりするなど、造形活動の意欲を高め、自信をもって造形活動に取り組むことができるようにするために有効であったか

授業の導入で、児童とともに、校庭の築山周辺に行って「いいところ見つけ」をし、意見交換をした後、築山周辺の特徴についてまとめた(次ページ資料1)。児童には、場所の特徴をもとにした造形活動であることを知らせ、活動してみたい場所を探して、学習カード(せいさく計画書)に、築山周辺の特徴から発想した表し方やそのために必要な材料、道具などを図や文で書くように指示した。児童は、造形遊びに必要な材料や技について、自分でできることに

は◎、手伝ってもらいたいことには●をつけ、友達や先生に相談したいことをまとめていった。

発表会では、自分の発想や表し方を学習カードをもとに発表し、自分の試行の方向性を確かめることができるようにした。その際、発表者には、友達に相談したいことや友達からの質問や意見を聞くように指示した。

Aは、築山の特徴を「木がたくさんある」とし、資料2をもとに、自分が発想したつくりたいものは、「リサイクル楽器、秘密基地、きれいな筒のぼう」と発表した。また、「時間内にすべてをつくれるだろうか。」と相談した。友達から「つくる順番を決めるといいよ。」「細かい部品は、休み時間や放課後をつかってつくっておいたら。」とアドバイスされ、解決の手がかりを得た。次に、「秘密基地をつくるための大きな段ボールは用意できるのか。」と質問されたが、「おばあちゃんの会社からもらう。」と答えていた。授業後に、「先生、すてきランドの作品はいつつくるの？早く、つくりたいな。」と言ってきた。Aは、発表会で友達と意見を交換する中で、自分の発想や表し方に自信をもったようである。

### 資料1 築山周辺の特徴のまとめ

**築山周辺のいいところを見つけよう**

☆高さがちがう築山が3つある (しゃめん・坂道)
☆高くてながめがいい
☆大きな木 (えだ) がたくさんある
☆緑が多い (いろ)
☆木かげがある (すずしい)
☆かれ葉やドングリなどが落ちて
☆小鳥の鳴き声がある
☆自然がいっぱい (花や草)
☆さわやかな風がふいている
☆虫がいる
☆トンネルがある
☆すべり台がある
☆丸太橋がある
☆かいだんがある
☆たいしとやわらかい土
☆教室より広い
☆九小っ子の人気の遊び場である
☆かくれんぼができる
☆かくれがある
☆ロープがある
☆近くに遊具がある (てつぼう・のぼりぼう・サッカーゴールなど)
☆小石やじゃりが落ちている

H15.9.18調査

### 資料2 Aのせいさく計画書

園工：遊形遊び『ここは、すてきランド』学習カード3  
せいさく計画書 なまえ ( )

作品名 <b>せいさく計画書</b>	きり	きれいなぼう	◎
築山のどくちよう木 <b>木がたくさんある</b>			
<p>できあがり予想図</p>	<p>作るばんばんさ 考えておいたぼうか</p>		
	<p>この間は 休みの時間</p>		
<p>ひつような材料</p> <p>● いととらんとん (手紙、紙)</p>	<p>◎自分でできる ●先生に手伝ってもら</p>		

Bは、できあがり予想図を描くのにだいぶ時間がかかっていた。発表会では、築山の特徴を「木がたくさんある」とし、次ページ資料3をもとに、作品名を「ハコの魚」と発表した。友達から「築山に魚がいるのはどうかな。」と指摘され悩んでいたが、自分と似たような発想をしている（築山には葉っぱやドングリなどが落ちているので、それらを使ってキラキラ金魚をつくる）友達がいることを知って、安心した様子であった。また、築山の特徴とつくりたいものとの関連性については、「落ちてくるドングリを拾って段ボールにつけるといいよ。」という友達の意見を参考にすることで、解決できた。発想や意図を伝え合い交流し合うことで、Bは、自分の考えをみんなに伝えることができ、自分の考えた「ハコの魚」をつくろうと、自らの思いをふくらませることができたと考えられる。

これらの活動の様子や、学習カードへの書き込み、発表会での発言内容などから、自分と考えや活動場所が似ていたり、違っていたりする友達がいることや、自分や友達の発想のよさなどに気づき、造形活動の発想に変更を加えたり、追加したりするなど、造形活動の意欲を高め、

自分の試行の方向性を確かめることができたと考えられる。

以上のことから、場所の特徴から考えた発想や表し方について交流する活動を行うことは、自分の思いがふくらみ、意欲を高めながら自信をもって造形活動に取り組むことができるようにするために有効であったと言える。

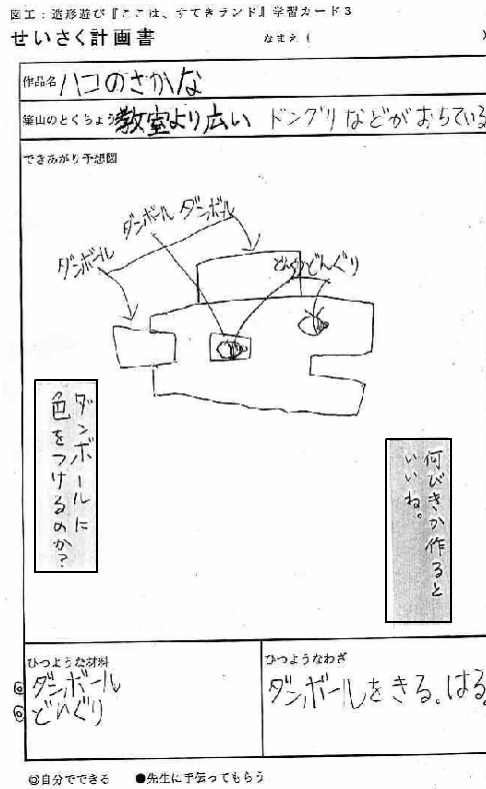
2 「製作する」過程において、造形活動の途中で発表の場を設け、お互いの表し方やその意図を伝え合ったり、ほかの場所での表し方を見て、いいところやもう少し工夫するとさらによくなるどころなどを、意見交換し合ったりしたことは、自分と違った表し方を知り一人一人の思いを再構築し、表現につなげていくなど、創造的な想像力を伸ばすために有効であったか

児童は、前時に作成したせいさく計画書をもとに思い思いの場所で自分のつくりたいものをつくり始めた。児童には、3時間目の中ごろに、全体で意見交換し合うことをあらかじめ伝えておいた。教師は、児童一人一人の進み具合を見て回り、おおよそ1時間後に集合をかけた。児童は、友達の作品を見て、いいところや、改善点を学習カードに書いた。感想だけでもよいが、どこを見てそう思ったのか根拠を明確にするように伝えたため、それぞれの児童が、自分の工夫したところや友達のよいところを記録できた。集合場所では、作品の途中経過を紹介したり、感想を述べ合った。その後、学習カードを交換し合い、渡されたカードを読んでその内容を整理し、参考にできそうなものを選んでいった。活動が思い通りに進まない児童には、材料の扱い方やしくみについて相談にのり、児童の思いに応じてやり直しを認めるようにした。話合いの後、さらに工夫して仕上げる時間を設けた。

Aは、前日から、必要な材料を用意していた。大きな段ボールなどがあり築山まで材料を運ぶのが大変そうであったが、準備のできた児童が手伝ってくれた。教師の話聞いた後、すぐ造形活動にかかった。せいさく計画書に、3本の支柱をたてる際、ひもでしばるのが難しいと書いてあったので行ってみると、支柱はしっかり組み立てられており、段ボールの取付けをしているところであった。段ボールの先端に穴があげられS字のフックが差し込んであった。ひもをしばったところにフックを引っかけるアイディアをほめ、取付ける位置が高いので手伝った。交流する活動の場面では、段ボールで休憩所をつくっている友達の作品について「段ボールを切り抜いて窓をつくったところがいい。」「時間があればかざりをつけたり、いすをつくらうといいです。」と学習カードに書いていた。仕上げの活動の場面では、「段ボールのつなぎ目はきれいにはるといいよ。」という友達の意見を参考にして、ガムテープでいねいに段ボールをつなぐようにしていた。授業後にAは、自分の作品について感想を書いた。(次ページ資料4)

Bは、はじめ、造形活動を計画した場所のそばに水たまりがあることを気にしていたが、ほぼ計画通りの場所に材料を置き、シートを広げた。しかし、なかなか造形活動に取り組めない

### 資料3 Bのせいさく計画書



でいた。話を聞いてみると、魚のひれにしたいと思って持ってきた金色の菓子箱のしきりの大きさに合う箱をどうつくろうかと悩んでいた。そこで、「材料コーナーを見てくるといいよ。」と声をかけたところ、魚のひれとして使うしきりの大きさにぴったり合う箱を材料コーナーで見つけ、造形活動にかかることができた。交流する活動の場面では、金魚をつくっている友達

#### 資料4 Aの感想

##### ★自分の作品【音のなる家】について

今日のかつどうは、とても楽しかった。そのわけは、ともだちがみにきてくれたからと、先生にほめられたから。ダンボールが大きいので、しちゅうにかけるといいね。たいていへんた。た。ダンボールのつなぎめを、ていねいにしちゅうにかけると、まえよりよくなった。うれしかった。

#### 資料5 Bの感想

##### ★自分の作品【すてきランドに魚がめられる】について

外でできてたのしかった。はじめに思いついたのは魚のひれだった。はなはあいのあと、ホンドで「ドンリ」の目をつけたり、ハコに黄色いかみをはったりした。じぶんで「は、よくかんばれた」と思う。4年で「もこういうじゅぎょう」がしたい。

に「あなたの作品のいいところはキラキラの紙をつけたところ。」「ビニールに模様をつけるともっとよくなる。」と学習カードに書いた。一方Bの作品に友達は、「あなたの作品のいいところは、金色のひれがいっぱいあっておもしろい。」「もう少し大きくてもいいし色をつけたらもっとよくなる。」と書いた。Bは、友達の意見を読みしばらくの間考えていたが、黄色の工作用紙を取り出して箱の大きさに切り、はり付けた。「友達の意見を参考にしたんだね。きれいな魚ができたね。」と言うと、うれしそうに笑って、友達の所へかけていった。終了時間になったので、自分の活動のよさが感じられる場所へ作品を置くように告げると、Bは、水たまりのそばへ魚を持っていき、ていねいに作品を設置していた。自分の作品についてBは資料5のように書いた。

学級全体としては、発想や表し方の似ている児童の作品を見合ったり、工夫するとさらによ

くなることを友達からアドバイスしてもらったりして、一人一人が思いを再構築し、造形活動につなげていった。仕上がった作品を設置する児童の顔が、自信にあふれ満足していた。

このように、造形活動の途中で場所の特徴をもとにした表し方について交流する活動を取り入れたことによって、児童は試行を繰り返しながらよさや美しさなどを考え、表し方などを工夫し、自分の思いを、形、色、材料などで具現化していったのである。したがって、造形活動の途中で発表の場を設け、交流するお互いの表し方やその意図を伝え合ったり、ほかの場所での表し方を見て、いいところやもう少し工夫するとさらによくなることなどを、意見交換し合ったりしたことは、自分と違った表し方を知り一人一人の思いを再構築し、表現につなげていくなど、児童の創造的な想像力を伸ばすために有効であったと言える。

## VII 研究のまとめと今後の課題

- 「発想する」過程で、場所の特徴から考えた発想や表し方について交流する活動を取り入れたことは、自分の思いをふくらませるのに有効であった。
- 「製作する」過程で、造形活動の途中で場所の特徴を生かした発想や表し方について交流する活動を取り入れたことは、自分の活動を振り返ったり友達のよさに気づいたりするのに有効であった。また、学習カードを交換することによって、お互いの作品のよさや違いに気づき作りだす喜びが広がり、創造的な想像力を伸ばすことができた。どの児童も、自信をもって自分の作品を紹介し、この活動をやったよかったと感想をもつことができた。
- 課題としては、造形活動の途中で交流する場の設定については、時間を決めて行ったが、児童の造形活動の状況を見て判断することが必要であった。